

# 一般選抜 前期 国 語 (二日目)

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

教育学者の福田誠治は、フィンランドの学校教育の特徴を次のように述べている。

第一に、一人ひとりを大切にすると平等な教育がなされている。まず、一六歳までは、選別をしない教育が実行されている。教育の基本は序列付けではなく、一人ひとりの発達を支援する教育である。さらに、社会にはどのルートを通っても、学ぶ気になれば誰もがいつでも学べる学校教育制度が<sup>(一)</sup>つくられ、学習をホシヨウする社会的なシステムが整えられつつあることである。

第二に、子どもが自ら学ぶことを教育の基本に据えている。競争などで学習を強制したりしない。あくまで、自らが学ぶことが基本である。したがって、子どもたちは授業の中であつても休む自由を与えられている。グループ学習、教え合いを大切にし、マイペースで学べるよう工夫されている。

誰もが(あ)学ぶ機会があり、子どもは自分の興味に従って(い)学ぶとともに、競争や能力別のクラス分けなどもない。授業のなかで自由にグループを組んで学習をし、疲れたら各々勝手に休む映像を私も見たことがある。

福田はフィンランド教育組合でのやりとりも紹介している。

「点数の高い高校に受験生が殺到するのではないか」

「それは、他人の点数だ（中略）しかも平均点だ。英語と数学の平均点を出して、何が出てくるのか。自分が何を学びたいかが重要だろう」

つまり良い偏差値の学校なるものが仮にあったとしても、その「良い偏差値」は多数の人のデータからなる統計である以上、自分の成績とは関係がないものだといふのだ。しかも異なる教科を制約のあるペーパーテストで測った平均値はそもそも意味がない。

日本の若者の多くは受験勉強を強いられ、偏差値を気にしているだろう。日本では長年にわたり偏差値によって学校は一直線にランク付けされ、受験生たちは模擬試験や本試験の結果に一喜一憂している。誰もが自由に学ぶ権利をもつはずなのに、学校にランク付けがあり、入学試験で排除することがあるということは奇妙でもある。

また、さまざまな研究分野をもつ大学が、なぜ「私立文系」「国立理系」といった雑なくりのなかで序列がつけられるのだろうか。私たちはそれぞれ興味を持つことが異なり、そもそも興味や得意は、中学や高校で行われる教科からはみ出るところが多いだろう。

さらに大学に行ってから多様な学びと研究は、高校までの画一的な教科とはまったく質が異なる。学生自身一人ひとりの願いは異なり、大学の学部の学びの多様さがあるなかで、偏差値という単純な数字を頼りにして序列化することで何が判断されてきたのだろうか。しかし、これほど当たり前のものとして受け止められているのは、数字の（う）がそれだけ強いということでもある。

一九五七年に東京都港区の中学校教員だった桑田昭三が、学力偏差値を考案した。当初は教員の勤に頼っていた進路指導に、信頼できる指標を導入することが目的だったのだが、次第に偏差値は独り歩きし、偏差値そのものが勉強の目的となっていく。例えば英語の学習は英語が使えるようになることではなく、英語のテストの偏差値が上がるのが目的となってい

る。偏差値そのものは、テストの点数がセイキ<sup>(1)</sup>分布すると仮定される母集団のなかで、どの位置にいるのかを示す統計的な指標にすぎない。

本章では「偏差値で人の能力が測れるのか？」と批判したいだけでなく、そもそも「人間を数値化して比較することで、私たちは一体何をしていることになるのだろうか？」と問いを立てたい。それは数値化・序列化がもたらすものを考えていくためである。

数値至上主義は偏差値に限った話ではない。社会に出たらあらゆる活動が数値で測られる。例えば大学教員である私は、毎年何本論文や著作を出版したのか、いくら助成金を獲得したのかを大学に報告する。業績の報告のあと、年度末に次年度の目標を立てて提出している。つまり目標と成果が数値で計測され評価されるのだ。民間企業に勤めている人たちは、もちろん<sup>(1)</sup>私<sup>(1)</sup>どころではない。

さらに、個人の問題だけではなく、学部としても次年度の数値目標を立て、年度末に達成状況を大学本部に報告する。大学全体でも同じデータ集めは行われており、各学部で作成させた六カ年ごとの中期計画のデータを集計して文部科学省へと報告して国からの評価を受けている。

つまり個人から組織、国家にいたるまで、子どもから大人にいたるまですべて数値で評価されている。数値に基づいて行動が計画・評価され、価値が決められるのだ。

もちろん数値化されるのは人だけではない。自然と社会を含む森羅万象<sup>(2)</sup>が一九世紀にいたって数値で測られるようになってきた。そして、この数値化は、統計学の支配という形を取ってきた。たとえば現在、医療の世界では「エビデンス（根拠）に基づく医療（EBM）」が絶対的な価値を持つ。これは統計学的にビョウタイ<sup>(3)</sup>を分析し、統計学的に有効であると認められた治療法を選択するという営みだ。一九九一年にカナダの医師ゴードン・ガイアットが提唱した考え方である。

医療のエビデンスにはいくつかのグレードがある。もっとも確度の高いエビデンスは、患者を、ランダムに薬を投与する群と薬を投与しない群というように二つの群に分けて有効性を検討するランダム化比較試験（RCT）を、さらに複数比較

し、メタ分析した結果である。RCTの根っこには統計的な妥当性の評価がある。統計的に検討された複数の試験を組み合わせて、妥当性を上げていく。

エビデンスによって有効な診断方法や治療法が整備されるということには異論がないし、私自身もエビデンスにもとづく医療を選ぶ。しかし病の経験は、エビデンスにもとづく選択<sup>2)</sup>だけでは語り切れない。

再発がんが進行しているので「急に具合が悪くなる」可能性があるから、と緩和ケアを探すことを主治医から勧められた哲学者の宮野真生子は、エビデンスにもとづく医療において常に問題になるリスクについて次のように述べている。

リスクと可能性によって、「がんが再発した」私の人生はどんどん細分化されていきます。しかも、病と薬を巡るリスクはたくさんありますから、そのなかで、良くない可能性が人生の大半の可能性を占めるように感じ、何も起こらず「普通に生きてゆく」可能性はとも小さくなったような気がしています。(中略)

でも、このリスクと可能性をめぐる感覚はやっぱりどこか変なのです。

おかしさの原因は、リスクの語りによって、人生が（え）されていくところにあります。そのとき患者は、いま自分の目の前にいくつもの分岐ルートが示されているように感じます。それぞれのルートに矢印で行き先が書かれていて、患者たちはリスクに基づく良くないルートを避け、「普通に生きていける」ルートを選び、（お）歩こうとします。

けれど、本当は分岐ルートのどれを選ぶと、示す矢印の先にたどり着くかどうかはわからないのです。なぜなら、それぞれの分岐ルートが一本道であるはずがなく、どの分岐ルートもそこに入ってしまうえば、また複数の分岐があるからです。

エビデンスによって有効とされる治療を選ぶプロセスには<sup>四</sup>サイゲンがない。病が進行していくプロセスのなかで、効果が出る確率が高い治療法が選ばれることが多いだろう。しかし確率が高いといっても「四〇%の人にはこの治療法が有効であった」という意味であり、残りの六〇%の患者には効かない。つねに数値をめぐる患者は「効かないかもしれない」と不安

な状態に置かれることになる。宮野はこの手紙から半年ほどのちに四〇代前半で亡くなったが、エビデンスに基づくリスク計算に迫われてしまうと、人生の残り時間が確率と不安に支配されるものになってしまうだろう。

科学哲学者のイアン・ハッキングは、世界そのものが数学化したときに、世界は統計（確率）によって支配されることになったと書いている。

世界が自然法則によって支配されているとみなす決定論的な自然科学の展開のなかで統計学は発達し、社会および人間は統制可能で予測可能なものとなっていく。

アメリカのゴールデンアワーのテレビでは、（中略）露骨な暴力シーンよりも、確率について語られることが多いのである。新聞をにぎわせる恐怖が、確率を使って繰り返し語られる。その可能性「偶然・確率」chanceがあるのは、メルトダウン、癌、強盗、地震、核の冬、エイズ、地球温暖化、その他である。恐怖の対象は（たぶん）これらではなくて、実は確率そのものである。（中略）

このような確率の支配は、世界そのものが数学化されたところでのみ起こり得たものである。我々は自然に対して、それがどんなものであり、またどんなものであるべきなのか、根底的には量的な感覚を持っている。これは当たり前なことではなく、いくつかのささいな理由もあってたまたまそうなったのである。

統計学が力を持つ現状は、自然と社会のリアリティの在処が具体的な出来事から、数字へと置き換わったことの象徴である。当初、統計は a と見なされていたが、次第に統計が b であると考えられるようになった。統計は事実に近い近似値ではなく事実そのものの位置を獲得するのだ。先のハッキングはいう。

たとえば一九八八年、日本が遂に世界一の長寿国になったことが注目を集めた。我々は、ちょうど日本企業が投資のた

めの可処分資本を世界一蓄積しているのと同じくらいリアルに、平均寿命の伸びを日本人の生活や文化の現実的な姿と感  
じてしまうのである。

このように、「平均寿命」という単なる数字が日本を構成する（か）となる。一人ひとりの日本人は早く亡くなること  
も長寿のこともあるのだから、「世界一の長寿国」というラベルが個人の余命を説明するわけではない。ましてや一人ひとり  
の高齢者が具体的にどのような暮らしをしているのかを示すわけではない。独居なのか、病院で寝たきりなのか、認知症な  
のか、もしかしたら元気なのか、同じ九〇歳でもさまざまだろう。<sup>(3)</sup>

（村上靖彦『客観性の落とし穴』筑摩書房より、文中省略・変更あり）

〔問二〕 本文で福田誠治が述べていることの要約としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① フィンランドにおける教育の方針は、型にはまった画一教育ではなく、学びの自主性を尊重するものである。
- ② フィンランドは教育サービスの質が高く、そのための国民の税負担が公平になる仕組みがある。
- ③ フィンランドの学校教育においては偏差値を導入することなく、独自の値で評価を行っている。
- ④ フィンランドと日本の教育の共通点は、子どもの学びに競争原理が働いていることである。
- ⑤ フィンランドを参考にして、日本の学校教育は偏差値主義から一刻も早く脱すべきである。

〔問二〕 太線——部(一)～(四)の漢字と同じ漢字を用いる熟語を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |     |       |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |
|-----|-------|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| (一) | ホシヨウ  | ① | 症状 | ② | 償還 | ③ | 障害 | ④ | 傷病 | ⑤ | 賞味 |
| (二) | セイキ   | ① | 期限 | ② | 規程 | ③ | 基軸 | ④ | 希代 | ⑤ | 軌道 |
| (三) | ビョウタイ | ① | 態度 | ② | 耐性 | ③ | 胎芽 | ④ | 体側 | ⑤ | 帯域 |
| (四) | サイゲン  | ① | 負債 | ② | 決済 | ③ | 一再 | ④ | 学際 | ⑤ | 異才 |

〔問三〕 空欄（あ・い）それぞれに入るもつともふさわしい言葉の組み合わせを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- |            |         |           |         |
|------------|---------|-----------|---------|
| ① あ…平等に    | い…自主的に  | ② あ…社会的に  | い…個人的に  |
| ③ あ…基本的に   | い…原則的に  | ④ あ…義務として | い…権利として |
| ⑤ あ…子どもとして | い…人間として |           |         |

〔問四〕 空欄（う）に入るもつともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- |      |       |      |       |      |
|------|-------|------|-------|------|
| ① 横暴 | ② 人間力 | ③ 呪縛 | ④ 普遍性 | ⑤ 妄想 |
|------|-------|------|-------|------|

〔問五〕 波線~~~~部(A)(B)の意味としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |          |             |              |             |
|----------|-------------|--------------|-------------|
| (A) 独り歩き | ① 有名になる     | ② 他の要素と関係しない | ③ 価値を高める    |
|          | ④ 意図と無関係にすむ | ⑤ 力を増す       |             |
| (B) 森羅万象 | ① 原因と結果の連鎖  | ② あらゆる存在や現象  | ③ 地球上の生命の重み |
|          | ④ すべての人間の活動 | ⑤ 抽象的な概念     |             |

〔問六〕 傍線——部(1)「私どころではない」ことの説明としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 民間企業は学力偏差値を用いないので、大学ほど業績の報告を求められることはない。
- ② 民間企業が重視する目標と成果による評価は、大学におけるその評価の程度を上回ることはない。
- ③ 民間企業の業績報告は目標と成果による評価と一体であり、大学では同様の考え方はない。
- ④ 民間企業では学力偏差値を用いないものの、目標と成果による評価は大学と同じくらい注目される。
- ⑤ 民間企業における目標と成果による評価は、大学におけるその評価に比較すると厳しい。

〔問七〕 傍線——部(2)「語り切れない」ことこの理由としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 医療の進歩は著しく、時代が変われば治療の効果性は飛躍的に上昇するので、医療統計は変動的であるから。
- ② 薬の開発にあたり、有効性を議論することは様々な比較試験を無数に実施し、分析する必要があるから。
- ③ 患者の人生の多様性と自由意志を考えると、最適な治療のプロセスを限定することは容易ではないから。
- ④ 高齢社会になり、病の状態と経過に個人差がある事例が増えすぎたため、治療法を類型化できないから。
- ⑤ 病に向き合う人が統計を理解したうえで、病と薬のリスクを見極めるための時間が足りないから。

〔問八〕 空欄（え）に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 最大化
- ② 統合化
- ③ 高度化
- ④ 細分化
- ⑤ 擬人化

〔問九〕 空欄（お）に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 慎重に
- ② 悠々と
- ③ 好き勝手しながら
- ④ 疑いつつ
- ⑤ 全速力で

〔問十〕 空欄 a ・ b に入るもっともふさわしい表現の組み合わせを、次の①～⑤の中から一つ選

びなさい。

- ① a ..世界の秩序を映す合わせ鏡      b ..世界の法則そのもの
- ② a ..世界の法則そのもの      b ..世界のリアリティについてのある程度の傾向を示す指標
- ③ a ..世界のリアリティについてのある程度の傾向を示す指標      b ..世界の秩序を映す合わせ鏡
- ④ a ..世界の秩序を映す合わせ鏡      b ..世界のリアリティについてのある程度の傾向を示す指標
- ⑤ a ..世界のリアリティについてのある程度の傾向を示す指標      b ..世界の法則そのもの

〔問十二〕 空欄（か）に入るもっともふさわしい言葉を、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 近似値そのもの
- ② 想定そのもの
- ③ 予測そのもの
- ④ 期待そのもの
- ⑤ 事実そのもの

〔問十二〕 傍線——部(3)「同じ九〇歳でもさまざまだろう」の表現が意味することとしてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 医療エビデンスは様々な高齢者の問題を隠している。
- ② 統計学は現実の高齢者の多様さを説明しきれない。
- ③ 高齢になるほど人生の分岐ルートが多くなる。
- ④ 高齢になると治療の確率の高さを優先すべきである。
- ⑤ 九〇歳は高齢であるのに個人差が尊重されていない。

〔問十三〕 本文における「エビデンス」の考え方としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 治療に関するエビデンスを重視することは必ずしも患者の人生を豊かにするものではない。
- ② 治療に関するエビデンスは地道な実験を積み重ねたうえで解釈されれば有効性が高まっていく。
- ③ 病に関するエビデンスの量的な程度が十分であっても治療を施す側に効果があるとは言えない。
- ④ 病に関するエビデンスの質的な水準が高い場合に限って患者の不安を取り除く可能性がある。
- ⑤ 病に関するエビデンスを患者が理解するために統計学は信頼度を上げなければならない。

〔問十四〕 本文の要旨としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 人間の存在や自然の法則をより正確に把握するための統計は人類の幸福のために不可欠であるが、統計を十分に駆使するための方法論の議論は置き去りにされている。
- ② 人間の人格や個人の生活を反映しきれない数値にこだわることなく、記述的なプライベートを表現する手段を用いて人間及び個人の問題を解決する議論をすすめる必要がある。
- ③ 学力偏差値や医療エビデンスで用いられる数値は単なる指標であったはずが、それ自体が事実であると見なされるといった数字の支配が起きている。
- ④ 個人や社会を理解するために実験による分析を重ねることは科学の責任であるが、その分析結果は世の中のリアリティを十分に感じられるだけの統計的な裏付けが不足している。
- ⑤ 統計の専門家による議論は必ずしも見解が一致しないが、教育や医療において数値を扱う有用性に疑う余地はなく人間らしさの追求を伴う統計手法の開発が望まれている。

〔問十五〕 本文で「数値による評価」について述べている内容と一致しないものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 大学教員は、論文や著作の数、また獲得した助成金の多さが評価されることがある。
- ② 日本では長い間、偏差値により学校がランク付けされている事実がある。
- ③ 医療において統計的な分析による治療法の選択は、提唱されてから30年以上が経つ。
- ④ 日本の大学では、次年度の数値目標を立て年度末に達成状況を報告することがある。
- ⑤ 偏差値による評価は、多様な学びと研究をもつ大学教育に活用されることがある。

〔問十六〕 本文は「客観性」の概念に関する論考である。本文における「客観性」に関する説明としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 多数の主観性を総合したものが客観性であるので、より多くの人の数値的評価が必要である。
- ② 学力の程度を正確に示すためには、客観性をともなう偏差値の算出が不可欠である。
- ③ 統計学は客観性を示す手段として、数値で事実に近いものを表すはずが、事実そのものを表すと誤解されている。
- ④ 高度な医療技術の進歩は、必ずしも客観性を十分に有した実験の分析結果を必要としない。
- ⑤ 現実を数値で置き換える過度な作業は、現実を評価する際の客観性の信頼度を損なうことがある。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

文字は言葉<sup>(1)</sup>を化石化し、繰り返しや保存を可能にする耐久性の高い装置である。

A

しかし、近年になると言葉の役割は大きく変わった。通信技術の進歩によって遠距離のコミュニケーションが可能になると、言葉の主たる目的は B となり、信頼や関係づくりではなくなった。近年のインターネットや携帯電話の普及はその傾向に拍車をかけた。巨大なデータベースがあつて、その内容はつねに更新されている。世界のできごとを伝える多様なニュースに無料でアクセスでき、キーワード検索を使って自分が知りたい情報を簡単に得られる。自分の好む相手とめぐりあい、会話を楽しむことも可能だ。必要ならSNSを駆使して相手の映像を同時発信でみることができ。こういった多様な方法で情報取得や会話が可能になると、それに時間をかけることがやっかいに思えてくる。会って話ができる距離にいても、会わずに携帯電話を用いて話をする人が増えるのは当然のキケツといえる。その結果、対面して話をする機会は減少し、ひきこもりという新たな生活スタイルが登場した。相手の目の動きを手がかりにして心の動きを読む能力も失われつつあるのではないかと思う。

現代の人間に C というわけではない。これは現代の科学技術が人々の負担を減らし、効率のよい生活設計のなかで自由な時間を広げようとした結果なのだ。近代日本を象徴する三種の神器（白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機）は家電製品の爆発的流行をもたらした。それまで多くの労力と時間をかけてきた家事が短時間で行えるようになり、食事やその前後の団らんのなかで交わされていた情報交換の役割をテレビが担うようになった。その後、つぎつぎに新しい電化製品が登場し、人々の生活は便利になった。電子レンジや食器自動洗い機などが登場して家事の時間はますます節約され、建築技術や冷暖

房機器の改良によって居住空間は密閉されて快適になり、外界とカク<sup>(1)</sup>ゼツされるようになった。コンビニエンスストアやファーストフードの店があちこちにできたおかげで、いつでも好きなときに簡単に食事ができ、必要なものなんでも手軽に入手できるようになった。自家用自動車をだれもが手に入れられる時代になり、気の合った仲間と好きなときに、他者に気兼ねすることなく自由に移動できるようになった。ちょっと前までなにをするにも人々にたずね、協力を仰ぎ、他者の目を気にしながら時間をかけて行っていた作業を、自分の都合を第一に考慮しながら自分で決定できるようになったのである。<sup>(2)</sup> なんとという自由な世の中になったことか。

しかし半面、それは人間が数百万年をかけて培ってきた重要な能力や社会性を失わせる結果をもたらしているのではないだろうか。長い狩猟採集生活のなかで発達させた「分かち合い」の精神は、農耕や牧畜の社会になっても食の共同をつうじて生き残ってきた。信頼できる仲間と毎日顔を合わせることで、心のきずなは保たれてきた。だが、現代はだれとも顔を合わせなくても、言葉を交わさなくても生きていける。通信販売で必要なものはすべて手に入るし、近くのコンビニエンスストアで目的の品を無言でレジへもっていけば、言葉を発することなく購入できる。

パソコンを開けば、そこには無限の世界が広がっている。会ったこともなく、名前も知らない相手と親密な対話ができるし、自分の経歴や身分を明かさずにつきあうことができる。同好の仲間を集めてグループをつくり、顔を合わせないままにインターネットのなかで会話を楽しむことができる。ギャンブルや投資も可能で、<sup>(1)</sup> 一歩も部屋から出ないでお金を稼ぐことができる。インターネット上に意見を書き込んだり、選挙の投票も可能なので、政治活動にも主体的に参加することができる。二〇世紀末の東欧諸国やソ連の崩壊は、ラジオや電話などの通信手段が果たした役割が大きかった。<sup>(2)</sup> 独裁政権がいかに厳格な報道管制を敷いても、人々はラジオによって他国の放送を聞き、政府の実態を知っていたのである。最近のイスラム世界で起こっている政治運動は、インターネットによるよびかけと携帯電話による交信が引き起こしたものである。所在不明の場所から一斉配信ができ、ばらばらになっている多くの人々が即座に情報を交換できたからこそ、<sup>(3)</sup> 影響力のある指導者がいなくても大きな連帯行動が可能になったのだ。言葉はもはや生身の体とは離れて人々を動かすようになってい

そういったコミュニケーションと生活様式の変化による影響をもっと大きく受けたのが家族ではないかと思う。おそらくホモ・エレクトロスの時代に完成した家族という社会単位は、植物食から肉食をとり入れた雑食へと食物が変わっても、移動を基本とする狩猟採集生活から食料を生産する定住生活へ変わっても、即時収穫システムから遅延収穫システムへと経済が変わっても、集団の規模が数十人から数万人へと変わっても、つねに社会の基本的な組織として命脈を保ち続けてきた。それはどの時代でも、どの条件でも、社会をつくる資本は共感にもとづく信頼関係であり、それをたがいに顔と顔を合わせるコミュニケーションが**つくってきた**からである。

人間が言葉を使わなくても共鳴し合える共鳴集団の規模はいまだに一〇〜一五人である。これはゴリラの集団の平均的な大きさと変わらないし、人間の家族の大きさとも一致する。人間がゴリラとちがうのは、家族以外にそういった共鳴集団を複数もてるようになったことだ。家族に属し、会社の仲間と共同で仕事をし、スポーツの仲間と集まる。私たちは日々そういった共鳴し合える集団を遍歴しながら過ごしている。言葉はその集団の維持に大きな役割を果たしているが、言葉以外のコミュニケーションも不可欠である。顔を合わせなければ、声を聞かなければ、いっしょに食事をしなければ、信頼関係を保ち続けることはむずかしい。

現代の通信革命は、そういった近距離のコミュニケーションの役割を大きく減退させてしまった。インターネットや携帯電話のほうがお手軽で便利だからである。かくして人々は顔を合わせなくなり、声をかけ合わなくなった。家族であってもいっしょに食事をする機会が減り、向かい合ってテーブルについてもたがいに携帯電話で話をしながら食べる。顔をみつめ合うこともない。相手は自分の見知らぬ人と携帯電話でつながっているから、いっしょに話をしていても心の動きを読めない。目の前にいる相手を信頼することができず、いっしょに食事をしたり、会うことすら億劫になる。しかし、独りであるのはさびしいのでいっしょにいる友達がほしいし、自分が孤独であることをみなに知られたくない。そういったジレンマにだれもが陥っているようにみえる。いままで長いあいだ、人々の信頼をつなぎ止めていた共感という感情が行き場を失ってさまざまに始めているのである。人々がスポーツの観戦やコンサートへ出かけて熱狂するのは、その満たされない思いを発散

しようとしているのではないだろうか。

(あ)、それは安易な共感の発露であるように私は思う。好きなチームの活躍に D し、観客たちとウェブをつくれば、多くの人々と心を一つにできる。でも感動する自分はいくまで受身である。自分はなにも犠牲にしないし、傷つかない。だれかを助けたり、幸福にしたりすることにも直接結びつかない。共感特別な状況におかれた特定の相手に対して向けられるものであり、人々のあいだに助け合いや協力をもたらす装置だった。人間にとって共感を育む器は家族であり、それをとりまく人々の輪が共感を向ける対象だった。現代の人々は便利な電化製品や通信機器に囲まれて自立した生活を満喫する一方、隣人との接触を減らし、共感を向ける特別な相手を失いつつあるのだ。この状態を放置しておけば、社会を支えてきた人々のきずなは緩み、ばらばらになって收拾がつかなくなる怖れがある。

現代は、人々が知り合う手続きをハブ<sup>(三)</sup>いて、集団が突如として立ち上がる時代である。人間は長いあいだ、身近な人々のつながりを窓口にしてつきあう範囲を広げてきた。(い)、人々が知り合うためには自分の氏素性を明らかにする必要がある。いまインターネット上で知り合うためには、そのようなアイデンティティは無用である。(う)、個人情報をかさないほうがつきあいやすい。ネット上の集団は、実際に人々が集まらないので目にはみえない。そうしたヴァーチャルな無数の集団がネット上に現れては消えていく。そこで人々は実際に会う以上に意見を交わし、行動決定をしていく。家族や地域共同体のきずなから解放された人々は、こういうネット上の集団に同調しやすくなるだろう。エジプトでもシリアでも中国でも、インターネットのよびかけに応じて多数の群衆が集まり、政府のやり方に抗議している。それは政府を倒すほどの大きな力をもっているのだ。それらの集団をまとめているのは怒りであり、現状を打破した後に見える未来への憧れである。みな信頼を集めるリーダーのもとに結集しているわけでも、人々のあいだで目的を十分に話し合っって連帯しているわけでもない。一つ歯車が狂えば、暴力に走ったり、たちまち崩壊してしまう危険をはらんでいる。

だが、そうした一見なんのまとまりもないような集団にも、目的意識を共有しているうちに信頼できる仲間ができ、緊密な協力関係が生まれることがある。阪神淡路大震災や東日本大震災では、ボランティアで集まった人々のなかにそのような

組織が自然に立ち上がった。全国各地から集まった若者たちは、だれの指図も受けず、黙々とがれきを撤去する作業に従事し、避難している人々に食料を配給した。そこには被災した人々を思いやり、なんとかして勇気づけたいという熱意がみとれる。それは日本だけでなく、近年世界各地で起こっている災害の際にみられる光景でもある。大きな危機に見舞われれば、現代の若者たちは共感を発揮して行動を起こす能力があることを物語っている。しかも、彼らはインターネットのよびかけに応じて集まり、携帯電話で連絡をとり合いながら行動したのだ。こうした能力や近代技術を結集して、新しい共同体をつくることができるかもしれない。

多産の特徴のもとに発達した人間の家族が、少子高齢化の時代を生き抜くことはむずかしい。しかも現代の通信革命と経済優先の社会は、家族のきずなを解体するように働いている。近親者や隣人との関係よりも、自分の生き方を充実させることが優先されるからだ。その萌芽<sup>(\*)</sup>は、じつは人間の生活史に初めから組み込まれていた。頭でっかちな手のかかる子どもを長期間かけて育てるために、人間はその養育者の生きる力を高めることをめざしたのだ。閉経を早めて寿命を延ばしたのも、つぎの世代の出産を助け、孫の生存率を高めるうえで効果的だったからだろう。ただ、多産の時代は共同の育児が不可欠だったために、自分独自の生き方を追求することはむずかしかった。しかし子どもの数が少なくなった現代は、長い人生を育児ではなく自己実現のために使うことができる。その方向へと人々が行動指針をとり始めたのが現代なのだ。

(山極寿一『家族進化論』東京大学出版会より、文中省略・変更あり)

(注) 本書が出版された二〇一二年ごろのイスラム世界をさす。

〔問二〕 傍線——部(1)「言葉を化石化し」とあるが、「言葉を化石化する」とはどういうことか。もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 昔の出来事を現代のことと捉え直すということ。
- ② 言葉をもとの形のままですべて保たせるということ。
- ③ 時代を越えて言葉を現代に伝えるということ。
- ④ 言葉の意味を確定させるということ。
- ⑤ 時代を反映するものとして扱うということ。

〔問二〕

次の

□

内の文は、本文中の空欄

□

A に入る文章を並べ替えたものである。意味が通るように

あゝえを正しく並び替えると①ゝ⑤のどれになるか。①ゝ⑤の中から一つ選びなさい。

あ しかし、文字は粘土板、皮、紙といった媒体に記されて利用されたので、声による会話ほどすばやく相手に伝えられる手軽な手段ではなかった。

い 最初の文字はいまから五五〇〇年前の西南アジアに楔形文字として登場した。

う やがて文字はできごとを記録し、歴史を編纂するために使われ、手紙や通達として直接声の届かない相手へ時間と空間を超えて伝える手段となった。

え むしろ、所有や交換のための証文や、共同作業の分担や手順を明確化するマニュアルとして用いられたのだからと考えられる。

- |   |     |     |     |     |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ① | あ ↓ | い ↓ | う ↓ | え ↓ |
| ② | あ ↓ | う ↓ | い ↓ | え ↓ |
| ③ | い ↓ | あ ↓ | え ↓ | う ↓ |
| ④ | い ↓ | う ↓ | あ ↓ | え ↓ |
| ⑤ | え ↓ | い ↓ | あ ↓ | う ↓ |

〔問三〕

空欄

□

B に入る語としてもっともふさわしいものを、次の①ゝ⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 情報の伝達      ② 歴史の編纂      ③ 通信技術の進歩      ④ 携帯電話の普及      ⑤ キーワード検索

〔問四〕 二重線——部(ア)・(エ)の言葉の意味としてもっともふさわしいものを、それぞれ①～⑤の中から一つずつ選びなさい。

- (ア) 拍車をかけた ① リズムを整えた ② 速度を緩めた ③ 発展を期待した  
④ 一段と力を加えた ⑤ 無理に急がせた
- (エ) 萌芽 ① 自然との共存による進化 ② 予想を超えた成長速度 ③ 隠されていたものの出現  
④ 心理社会的傾向 ⑤ 物事が起こるきざし

〔問五〕 太線——部(一)～(三)の漢字を、次の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- (一) キケツ ① 帰 ② 起 ③ 期 ④ 機 ⑤ 既
- (二) カクゼツ ① 核 ② 画 ③ 拡 ④ 確 ⑤ 隔
- (三) ハブいて ① 外 ② 反 ③ 除 ④ 割 ⑤ 省

〔問六〕 空欄 C に入る言葉としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 家電製品なしの生活を送ることはできない ② 携帯電話の機能が使いこなせなくなってきた
- ③ 情報交換できる機会が不足してきた ④ 出合いの機会が極端に減少した
- ⑤ 対面コミュニケーションが必要なくなった

〔問七〕

傍線——部(2)「なんとという自由な世の中になったことか。」から筆者のどのような思いが読み取れるか。もっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 科学技術の発展により、自分の都合を第一に考慮できるようになったことを全面的に支援している。
- ② 科学技術の発展により、時間のかかる家事が短時間で済むようになったことに驚いている。
- ③ 科学技術の発展により、人々が自由を手にして利己的になりつつあることに警鐘を鳴らしている。
- ④ 科学技術の発展がもたらした自由な生活を、他の動物とは異なるものとして誇らしく感じている。
- ⑤ 科学技術の発展がもたらした便利な生活を、今後も継続していくことを決意している。

〔問八〕

二重線——部(イ)「投票」、(ウ)「孤独」と同じ成り立ちの熟語を、次の①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ① 記名 | ② 市営 | ③ 呼応 | ④ 微笑 | ⑤ 机上 |
| ⑥ 起伏 | ⑦ 新年 | ⑧ 恩恵 | ⑨ 出沒 | ⑩ 開閉 |

〔問九〕 傍線——部(3)「生身の体とは離れて人々を動かす」とはどういうことか。もっともふさわしいものを、次の①～⑤

の中から一つ選びなさい。

- ① 直接対面することがなくても、情報を取得することによって集団をつくり行動できるようになったこと。
- ② 直接対面することがないことで、取得した情報の真偽を確かめずに行動できるようになったこと。
- ③ 直接対面を否定することで、インターネットによる情報に合わせて行動できるようになったこと。
- ④ 直接対面することで築いた信頼関係をもとに行動できるようになったこと。
- ⑤ 直接対面の問題に気づき、互いに距離を取って行動できるようになったこと。

〔問十〕 波線~~~~部(a)～(d)の「コミュニケーション」について、その言葉の指す内容が異なっているものを、次の①～④

の中から一つ選びなさい。

- ① a
- ② b
- ③ c
- ④ d

〔問十一〕 傍線——部(4)「保ち続けてきた」の主語(主部)として適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 基本的な組織として
- ② 集団の規模が
- ③ 家族という社会単位は
- ④ 経済が
- ⑤ 定住生活へ

〔問十二〕 空欄（あ）（う）に入るもつともふさわしい語を、次の①～⑧の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- |   |       |   |      |   |     |   |      |
|---|-------|---|------|---|-----|---|------|
| ① | しかし   | ② | つまりは | ③ | もし  | ④ | なぜなら |
| ⑤ | だからこそ | ⑥ | むしろ  | ⑦ | まずは | ⑧ | たとえば |

〔問十三〕 空欄 

D
---

 に入る四字熟語としてもつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ① | 一期一会 | ② | 一喜一憂 | ③ | 一進一退 | ④ | 一朝一夕 | ⑤ | 一言一句 |
|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|

〔問十四〕 筆者は「共感」をどのようなものだと考えているか。もつともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 複数の人間が心一つにして感動を共有するときの一体感。
- ② 現代人の孤独を埋めるために、互いにつながろうとするこころの働き。
- ③ 家族によって生まれ、家族によって受け継がれていく親愛感情。
- ④ 特定の相手との間に助け合いや協力を生じさせる仕組み。
- ⑤ 共鳴集団を遍歴する中でもたらされる信頼関係。

〔問十五〕

筆者の主張としてもっともふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選びなさい。

- ① 現代はインターネットの普及により実際に顔を合わせて交流することが減少しているが、逆に個人の自己実現に対する希求は減少する傾向にある。
- ② グリラよりも人間のほうが共鳴集団の規模が大きいため、インターネットが普及したことで交流の範囲が無限に広がっている。
- ③ これまで長い時間をかけて行ってきた家事労働が短時間でできるようになり、家族のだんらんの時間を確保しやすくなったが、その反面、自分の都合を第一に考えて行動することが増えてきている。
- ④ 現代は人間同士のつながりよりも自己の生き方を充実させることが優先されるようになってきているが、一方でインターネットを通じて緊密な協力関係が生まれることがある。
- ⑤ インターネットの普及は投資や政治活動の活発化を生み出すきっかけとなり、指導者のいない連帯行動が可能になったが、その連帯が続くことはなく必ず崩壊することになる。

# 【解答例】

入試年度 : 2026  
入試種別 : 一般選抜  
前期日程 1日目  
科目 : 国語

問No.	解答番号
1	1
2	3
3	2
4	1
5	4
6	1
7	3
8	4
9	2
10	5
11	3
12	4
13	1
14	5
15	5
16	2
17	1
18	3
19	5
20	3
21	2
22	3
23	1
24	4
25	5

問No.	解答番号
26	1
27	5
28	5
29	5
30	3
31	1
32	8
33	1
34	1
35	3
36	1
37	5
38	6
39	2
40	4
41	4